

知っていますか? 地域を守る消防団 わがまちいなべの消防団

消防団は、本業を持ちながら「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき、地域の安全と安心を守るために活躍している人たちが集まる、市の消防機関のひとつとして、設置されています。消防団員は、消防・防災に関する知識や技術を習得し、火災発生時の消火活動、地震や風水害といった大規模災害発生時の救助・救出活動、警戒巡視、避難誘導、災害防ぎょ活動をし、私たちの命や財産を守るために活躍しています。



消防団 3つの特徴

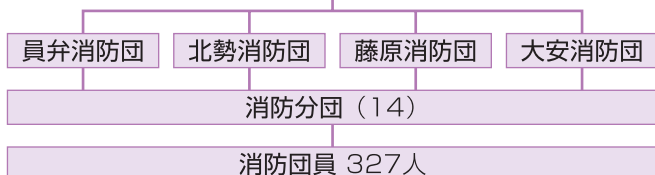
- ◆**地域密着性** (消防団員は管轄区域内に住んでいる方)
 - ◆**要員動員力** (消防団員数は消防職員数の約6倍)
 - ◆**即時対応力** (日ごろからの教育訓練により災害対応の技術・知識を習得)
- 消防は消火、救急など市民を災害から守ることを任務とし、市が責任を持って実施することになっています。

地域の消防イベントに参加
消防団員の活動の1つです
「水をこうやってきれいに
するんだよ」と団員がてい
ねいに説明します



「いなべ市消防団」

消防団本部



全国の市町村



地域防災を担う消防団員の活動

大災害への対応は常備消防（消防署）だけでは限界があり、地域に密着した消防団員が大活躍します。そのため消防団員は実際の災害現場での活動はもちろんのこと、そうした災害に備えて、さまざまな訓練や大会などの行事に励んでいます。

消防操法大会の様子▶



消防出初式



新しい年の始まりに、広く市民のみなさんに消防力を示し、防火の重要性を体感する機会の提供、防火思想の普及を目的として、毎年、員弁運動公園体育館で行われる恒例行事です。

式では、団員入場・表彰状授与が行われ、式の後、消防車両から青空に向かって一斉放水が行われます。

消防団の歴史

出初式の由来

8代将軍徳川吉宗の時代、享保3(1718)年12月に大岡越前守によって町火消が組織され、享保5年には「いろは48組」などに再編成され、鷹とびによる纏まといやはしごのりの妙技が出初式で行われるようになりました。明治の再編、昭和22(1947)年の消防団公布を経て現在に至っています。